

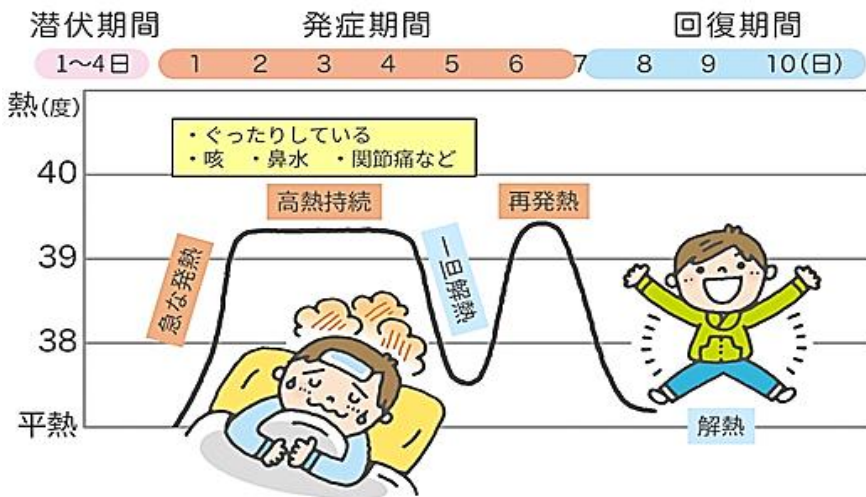


ほけんだより 10月号

2026年10月1日
昭和ナースリー
看護師

例年より早い流行！ インフルエンザ

インフルエンザの典型的経過（二峰性の発熱）



子どもは的確に訴えることができず「元気がない」「機嫌が悪い」といった状況が続きます。また、ワクチンを打っている場合など、高熱や症状が出ない時もあります。なにかいつもと違うな？と感じたら受診・検査されることをおすすめします。

昨年度は9月末に全国的に大流行しましたが、今年度はすでに8月末には、東京都でインフルエンザの流行基準を超えました。

乳幼児がインフルエンザにかかると、高熱で脱水のリスクや、稀にインフルエンザ脳症等の合併症を起こすこともあります。症状がひどい場合は、早めの受診で重症化を防ぎましょう。

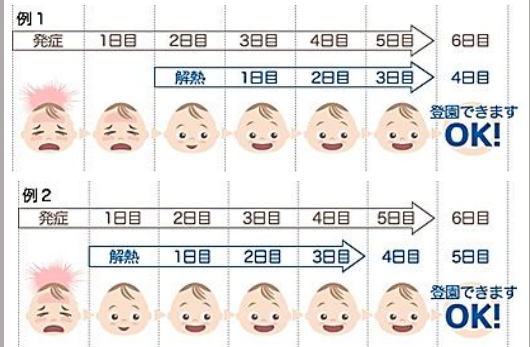
万が一、予防接種を受けた当日に登園する場合は、医師の指示に従い、ご家庭でしばらく様子を見てからの登園をお願いします。登園時にはその旨を保育士にお伝えください。



インフルエンザによる登園停止期間について

インフルエンザ発症後、登園可能になるには下記の2つの条件を両方、満たさないといけません。

- 発症後5日が経過していること
 - 解熱後3日が経過していること
- (症状が出現した日、解熱した日を0日目)



治癒後の登園時には、【登園届】（保護者記入）を提出してください。

昭和ナースリー9月の感染症報告

- 手足口病 3名（ひよこ2名・うさぎ1名）
- ヒトメタニューモウイルス感染症1名（ひよこ組）
- RSウイルス感染症 1名（ひよこ組）
- インフルエンザ 1名（ひよこ組）

10/14(水)に内科健診(全園児)がありますので、9:00までに登園してください。

全国的な流行で、インフルエンザの予防接種が例年より前倒しで始まっています！

インフルエンザの予防接種



予約方法や詳しい接種開始日などは、かかりつけ病院にお問い合わせください。

2回の接種が必要（生後6カ月から12歳以下）

小さな子どもは免疫がつきにくい為、2回の接種が必要です。効果を十分に上げるためには、1回目と2回目の接種の間隔は2～4週間あけるとよいと言われています。

効果が十分に出るのは2回目接種から約2週間

乳幼児は有効な免疫ができるのに2回目の接種から2週間かかります。

効果は約5カ月間持続する

インフルエンザの予防接種の効果は、約5カ月。10月から接種すれば、流行の始まりからしっかりカバーできます。